

C-25 成人女子における肩部形態とゆきの年代的变化について
金城学院大短大 の益田貴美子 佐藤貞子 若瀬ひろ

目的 被服構成学の立場から、肩部形態・ゆきが年代的にどのように変化するかを
観察する目的で、成人女子の身体計測を行い、その成績について考察した。

方法 資料は、名古屋市及びその近郊に居住する成人女子25～64才の510名と、金
城学院大学に在学する女子学生19・20才の129名、合計639名である。計測は1972年
7～9月に行った。

研究項目は、体格を示す基礎項目として、身長・胸囲・肩部・ゆきに関係のある項
目として指極・肩峰幅・背肩幅・上肢長・手長・袖丈、ならびに示数項目として指極
/身長・背肩幅/肩峰幅の10項目である。

結果 (1) 年代が進むに従い、身長・指極は漸減するが、胸囲は漸増する。

(2) 50才以上の年代では、背肩幅・肩峰幅ともに減少するが、特に肩峰幅の減少が
著しい。従って背肩幅/肩峰幅は増大する。又上肢長-手長の減少量は袖丈の減少量
より著しく多い。以上の事から考えると50才代以上では、背肩幅の計測位置・肩部・
腕部に丸みが多くなつていようである。

(3) 指極/身長は年代による変化は見られない。

(4) 全年令にわたり背肩幅の対身長・対胸囲の相関は、ほい中程度であり、指極・
上肢長の対身長の相関は高い。